



報道発表

令和7年5月28日
気象研究所

線状降水帯・台風等に関する 大気・海洋の集中観測の実施について

気象研究所は、線状降水帯や台風に伴う豪雨などの顕著現象の実態把握、メカニズム解明に向けて、本年5月下旬から10月の期間に大気と海洋の双方をターゲットとする集中観測を実施します。

線状降水帯や台風に伴う豪雨などの顕著現象の実態把握、メカニズム解明には、海洋表層の水温や海洋上の大気下層の水蒸気量などの実態把握が鍵となります。このため、気象研究所では令和7年5月下旬から10月にかけて、大気と海洋の双方をターゲットとした集中観測を実施します（別紙参照）。

本集中観測では、従来から実施している西日本の陸上や周辺海域での気象観測に加え、北西太平洋・東シナ海・黒潮続流域での自動観測測器による海洋観測や航空機によるゾンデ観測等、大気・海洋の様々な観測手段を用いて大学・研究機関と連携して実施します。これらの観測により、大気と海洋の相互作用が顕著現象に与える役割の解明等の研究が推進されることが期待されます。

ポイント

- ・ 大気と海洋の相互作用が顕著現象に及ぼす影響（海洋の役割）に着目した観測を実施（海域での観測の充実）
- ・ 自動観測測器による海洋観測や航空機によるゾンデ観測等、新しい機器を使って観測を実施（新しい観測機器の導入）
- ・ 北西太平洋、東シナ海、黒潮続流域にも対象範囲を拡大（観測範囲の拡大）

問合せ先：気象研究所企画室 広報担当

メール：ngmn11ts@mri-jma.go.jp

電話：029-853-8536（内線291）

令和7年度集中観測の概要

水蒸気ライダー

(長崎県：6月～10月(予定))

マイクロレインレーダー

(長崎、熊本：通年)

マイクロ波放射計

(福江、天草：通年)

降水粒子撮影ゾンデ

(垂水：6月～)

【集中観測協力機関】(五十音順)
 宇宙航空研究開発機構、
 NTT宇宙環境エネルギー研究所、
 沖縄科学技術大学院大学、
 海洋研究開発機構、鹿児島大学、
 京都大学、高知大学、
 情報通信研究機構、東海大学、
 東京大学、長崎大学、名古屋大学、
 日本アンテナ株式会社、
 防災科学技術研究所、三重大学、
 山口大学、琉球大学

大気(陸上)

大気(海上)

大気・海洋(海面・海中)

海洋(海中)

ゾンデ観測

マイクロ波放射計

(大槌：6月～9月)

水温観測

黒潮続流域

ゾンデ観測

マイクロ波放射計

水温観測

水中グライダー

(6月下旬～7月上旬)

二重偏波レーダー

(高知：通年)

地デジ電波

(九州15地点：通年)

黒潮の流れ

水蒸気観測、ゾンデ観測

(四国沖～本州南海域：6月～10月)

水蒸気フラックス観測

(東シナ海：6月)

降水・雲粒子撮影ゾンデ

(沖縄本島：5月下旬)

ドロップゾンデ

(6月下旬～7月上旬)

(8月下旬～9月中旬)

漂流ブイ

(沖縄周辺：6月～9月)

ウェーブグライダー

(沖縄周辺：6月～9月)

水中グライダー

(本州南海域：9月～10月(予定))

125E

130E

135E

140E

145E

40N

35N

30N

25N